

2.2 全国レベルのエコロジカル・ネットワークの現況図及び将来図作成の全体工程

全国レベルのエコロジカル・ネットワーク（略称：エコ・ネット）の現況図及び将来図の作成に当たり、本構想では Reed F.Noss(2002)(注)を参考に、①指標種の観点、②希少な種の観点、③多様な生態系の観点の3つの観点から検討を行った。3つの観点の概要を表2-2に、全国レベルのエコ・ネットの現況図、将来図作成の全体工程を図2-2に示す。

本構想の将来図は、第三次生物多様性国家戦略を参考に、50年～100年程度先を見通し、日本が進むべきおおよその方向を示すものである。

現況図及び将来図は、縮尺5万分の1の現存植生図(環境省自然環境局生物多様性センター「自然環境情報GIS」)を基本に解析を行っているが、希少な種の観点からの重要地域及び、生態系の多様性の観点からの重要地域の里地里山については、2次メッシュ(約10×10km)を解析に用いた。海底地形(水深)のデータは、Amante, C. and B. W. Eakins, ETOPO1 1 Arc-Minute Global Relief Model:Procedures, Data Sources and Analysis, National Geophysical Data Center,NESDIS, NOAA, U.S. Department of Commerce, Boulder, CO, August 2008.及びJ-EGG500(日本海洋データセンター)を利用した。

なお、本構想は、あくまで全国レベルのおおよその方向を示すものであることから、2次メッシュ程度のスケールが確認でき、また、全国が一望できるよう現況図及び将来図の縮尺を1,000万分の1程度とした。

(注)Reed F.Noss(2002):Information Needs for Large-Scale Conservation Planning.
(http://www.eman-rese.ca/eman/reports/publications/2002/conservation_planning.html)

表2-2 全国レベルのエコ・ネットの現況図、将来図作成に当たっての3つの観点

| | |
|-----------------------|---|
| ① 指標種の観点からの重要地域の抽出 | 同様の環境条件要求をもつ種群のうち、行動範囲が広い等、鍵となる種(指標種 [*])を選定し、それらの動物のハビタットを重要地域として特定する。 |
| ② 希少な種の観点からの重要地域の抽出 | 希少な種が現に確認されている場所(特にそれが集中しているホットスポット)を重要地域として特定する。 |
| ③ 多様な生態系の観点からの重要地域の抽出 | 多様な生態系タイプがバランスよく保全されるよう、特に希少な生態系、自然度の高い生態系を重要地域として特定する。 |

※指標種

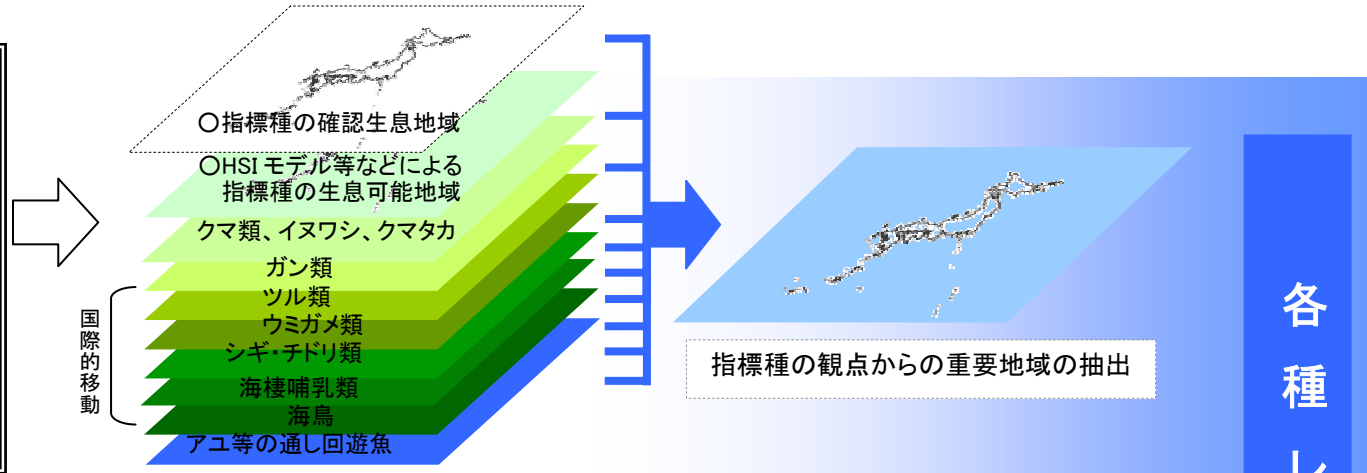
同様の環境条件要求をもつ種群のうち、その種の保護を追求することによって、地域の生物多様性の保全そのものに貢献することが多いと考えられる種。指標種としては、行動範囲が広い種、生態系における上位性の高い種等を選定することが適していると考えられている。それらの種のニーズを満たすことが、空間要求がそれほどでもない他種に対する「アンブレラ」機能を提供すると考えられるからである。例えば、ネズミの仲間のような小型哺乳類のエリア要求は、一般に、同じハビタット・タイプを利用するより大型の哺乳類のエリア要求を考慮することによって満たされると考えられる。

指標種の観点からの

- ・指標種の ※
- ・指標種の生態に
- ・指標種の

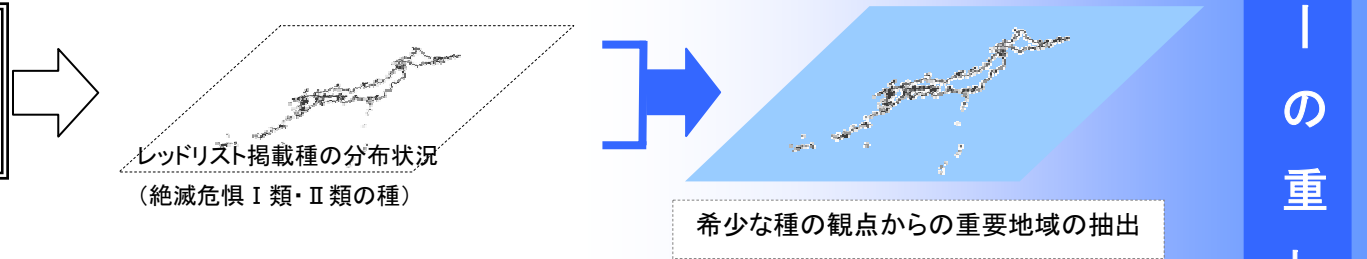
※

| 生態系等のタイプ | 指標種群 |
|------------|---------------|
| 森林 | クマ類、イヌワシ、クマタカ |
| 湖沼・湿原、田園地域 | ガン類 |
| 干潟 | シギ・チドリ類 |
| 河川 | アユ等 |
| ... | ... |



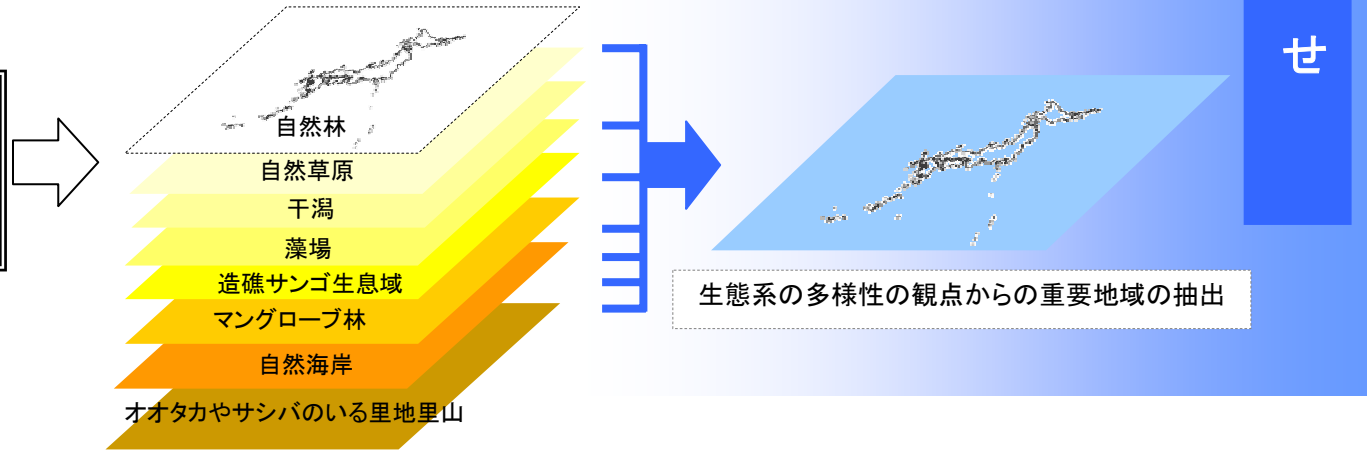
希少な種の観点からの

- ・レッドリスト掲載種の抽出
- ・希少な種の状況

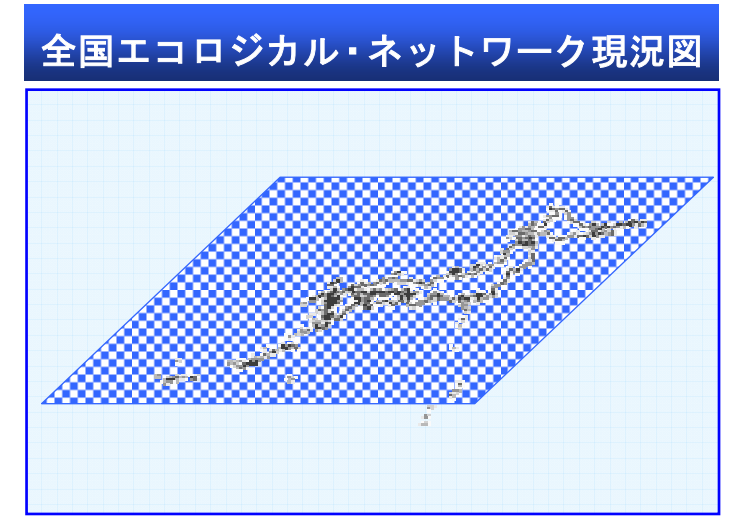


生態系の多様性の観点からの

- ・希少な生態系の



各種レイヤーの重ね合わせ



〇課題の整理

〇望ましい姿の提案

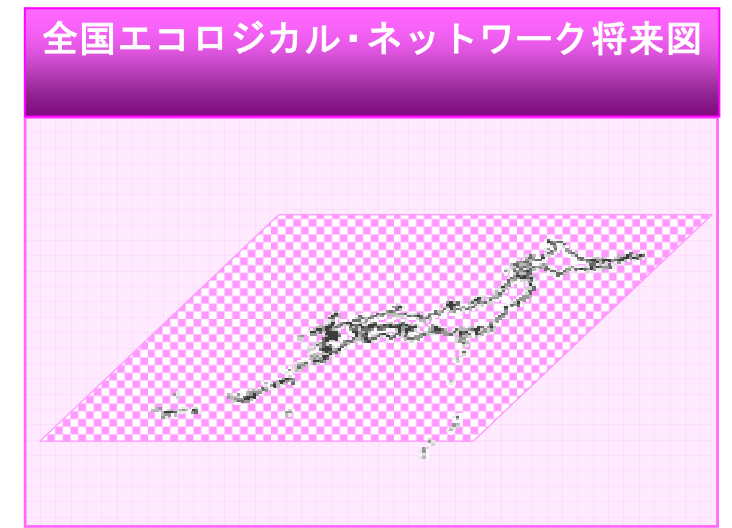


図 2-2 全国レベルのエコロジカル・ネットワーク現況図等作成の全体工程